

漁獲・資源管理および増殖事業の概要(平成12年11月～平成13年8月)

早期エリ漁は、特別採捕許可により、11月21日から開始、漁獲枠の約40tに達し次第終了した。さらに、エリ漁は1月8日から同月31日まで行われた後、一旦自主規制に入り、3月から再度開始された。なお、漁業調整規則上、2月に可能となる沖曳網は、自主規制により行われなかった。沖すくい網は6月1日より開始(通常6月10日)、エリ・小糸網(刺網)・ヤナの操業は8月20日まで延長(通常8月10日)された。

漁獲については、11月エリは好調であった。3月からのヤナも、前半は好調であったが、その後サイズが小型であった。人工河川の運用による産卵は、天然河川よりやや先んじて行われるが、前半の好調は人工河川の運用によるものである。天然河川では、産卵期の前半に渇水であったため、産卵が全く行われなかった。このため、前半の好調さが続かず、サイズが小型化したと考えられる。

アユ資源管理としては、漁業規制措置として滋賀県漁業調整規則によるアユの採捕禁止期間(8月11日～11月20日)の設定がされている。また、増殖事業として、平成13年8月下旬～9月下旬に、親魚を姉川人工河川に3,317kg(うち天然遡上群1,100kg)、安曇川人工河川に11,655kgの計14,972kgを放流し、約26億尾のふ化仔魚の流下が見込まれた。また、アユの保護水面8河川に対して産卵場整備を目的として河床耕耘が行われた。なお、天然河川への親魚放流は、渇水のため行われず、安曇川人工河川に放流された。

コアユ資源予測調査方法

1. 湖中アユ魚群分布調査

調査日:平成13年1月から8月

調査水域:琵琶湖北湖(図1)

方法:水試調査船に装備している50KHz魚群探知機(JRC製JFV-200)で水深6～50m層を船速8ノットで調査した。魚群探知機の記録映像は、記録機(JRC製NJW-96)の記録紙上で小群(航行方法1mm×深度方向7mm)、中群(同2mm×同14mm)、大群(同3mm×同21mm)に分け、小群値への換算は中群=4×小群、大群=9×小群とした。

2. 産卵状況調査

1)調査日:第1次調査:平成13年8月27,29日

第2次調査:平成13年9月10～14日

第3次調査:平成13年9月25～28日

第4次調査:平成13年10月10～12日

第5次調査:平成13年10月22,23日

2)調査河川:安曇川南流・北流、石田川、知内川、塩津大川、姉川、天野川、芹川、犬上川、愛知川、野洲川、和迩川(図2)

3)方法:各河川の産着卵を確認しながら徒渉し、産卵がある場合は、産卵場の範囲を確認して面積を測量した。産卵面積に応じて10㎡から30㎡当たり1カ所程度の割合で砂礫に付着している卵数を計数した。計数に当たっての砂礫の採集は直径10cm、深さ10cmの鉄製円筒を産卵場は無作為に投入し、河床に押し込み、その中の砂礫を付着卵がなくなる深さまで採集し、バットに広げて未発眼卵・発眼卵・死卵の計数を調査現場で行った。未発眼卵・発眼卵・死卵の和を総産着卵数とし、未発眼卵と発眼卵の和を有効産着卵数とした。

3. ヒウオ生息状況調査

1) 調査日:第1次調査:平成13年10月17,19日

第2次調査:平成13年11月13,15日

第3次調査:平成13年12月12,18日

2)調査水域:南浜～早崎沖、塩津湾内、竹生島周辺、海津～石田川沖、今津沖、船木崎～大溝沖、明神崎～近江舞子沖、北比良～和迄沖、菖蒲～長命寺沖(図3)

3)方法:水試調査船琵琶湖丸を用いて、1.67m/secの船速で水深6～8m層を角形幼生網(図4)を1000m(10分間)曳網してヒウオの採集を行った。採集は新月前後の夜間に行った。1水域の曳網回数は、竹生島周辺、今津沖および菖蒲～長命寺沖の3水域では2回、その他の6水域では4回とし、全9水域合計30回の曳網を行った。

ヒウオとは琵琶湖では一般に魚体が透明な時期のアユのことである。発育段階では、ほぼシラス型仔魚後期までのものに該当するが、メラノフォアが増加していない状態の稚魚期のものが含まれている場合もある。

4. 漁獲状況調査

1)調査漁業協同組合

エリ:彦根市磯田漁業協同組合

能登川町漁業協同組合

中主漁業協同組合

志賀町漁業協同組合

今津漁業協同組合

百瀬漁業協同組合

朝日漁業協同組合

南浜漁業協同組合

ヤナ:北船木漁業協同組合(安曇川)

浜分漁業協同組合(石田川)

百瀬漁業協同組合(知内川)

南浜漁業協同組合(姉川)

2)方法:アユ漁期中に調査漁業協同組合のエリやヤナで漁獲されたアユを上・中・下旬と
月3回採集し、10%ホルマリンで固定した後、体型測定を行った。

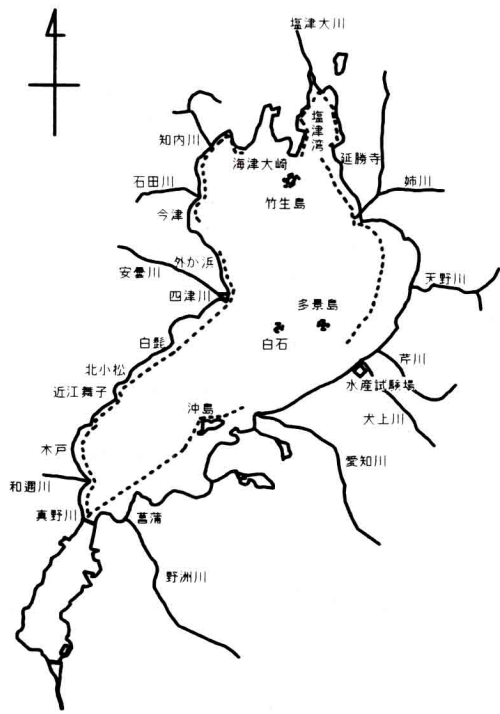


図1 湖中アユ魚群分布調査コース -----

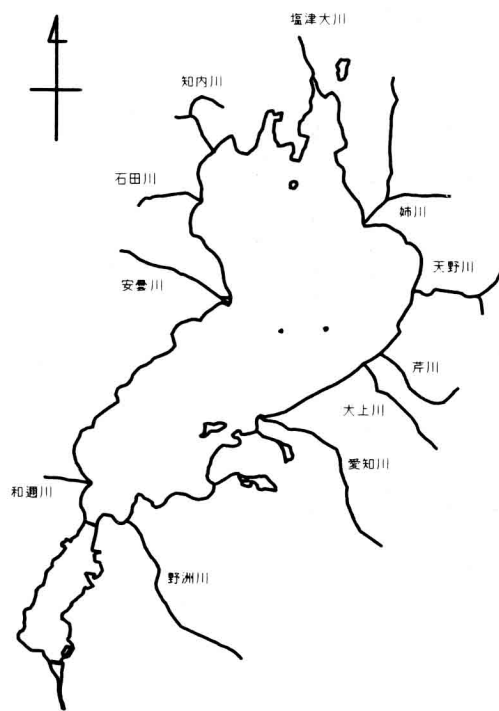


図2 産卵状況調査河川

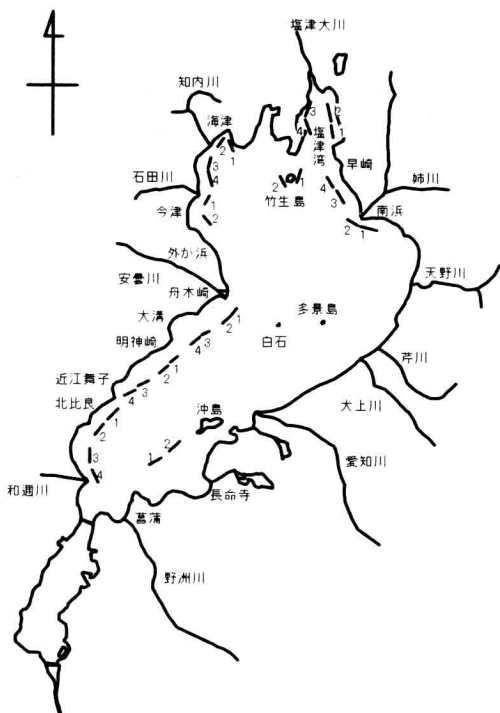


図3 ヒウオ生息状況調査コース ——

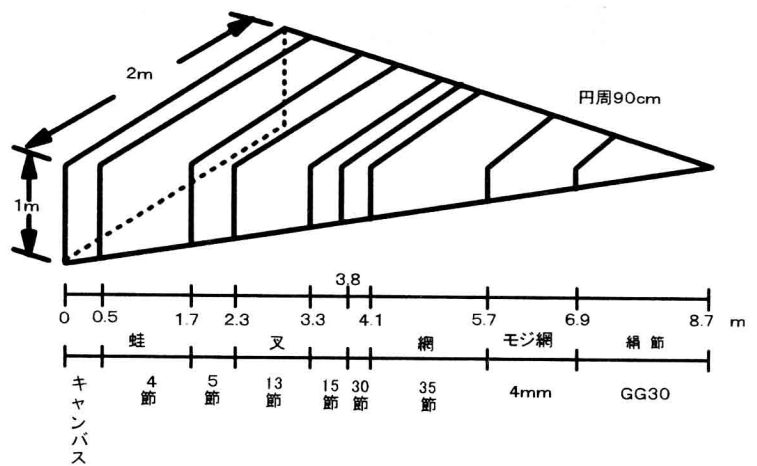


図4 角形幼生網